

平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	監査論B (AuditingB)		授業コード	E008851
担当教員名	工藤 順一		科目ナンバリングコード	E30612
配当学年	3	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	監査を学ぶことは公務員を目指す人にも、企業に就職する人にもとても有用です。できるだけ毎日、新聞等には目を通しておきましょう。			
受講心得	講義には、必ず出席してください。その際に最新の監査基準を持参してください。インターネット等でも入手できます。			
教科書	最初の講義で指定します。			
参考文献及び指定図書	「会計監査論 第5版」 山浦久司著 中央経済社 「監査法規集」 中央経済社 平林亮子著 「公認会計士試験 短等式 監査論」 中央経済社 「監査論の基礎」 石田三郎 林隆敏編著 東京経済情報出版 「監査論を学ぶ」 蟹江章 高橋利栄子 藤岡英治著 税務経理協会			
関連科目	簿記入門 財務諸表論 原価計算論 管理会計論、財務管理論 経営学			

授業の目的	監査論という名前は聞きなれませんが、会計のあるところには、必ず監査を伴います。金融機関や県庁・市役所はもちろん一般企業においても監査は必須です。このため、この講義においては、監査の基礎を理解するだけでなく、就職した後に実際に監査に立ち会ったり、監査資料の提出を求められてもよいように、基礎的な知識を身に付けましょう。大分の新聞等を使用して大分の企業の問題等も学習します。
授業の概要	監査論Bでは、まず監査論Aの基礎的なところを復習するとともに、監査論Aで学んだ基礎的な知識を活かして、会社法監査や周辺分野の知識も取り入れていきます。できるだけ、大分の企業等の新聞記事等も取り上げたいと思います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：会計監査のフレームワーク 会計監査の定義や概要を再確認します。特に、財務諸表監査としての会計監査の全体図を説明します。この中で、公認会計士試験における監査論の位置づけ等について学習します。	配布資料 演習の課題と解答例
第2週：監査計画の策定・監査調書 監査契約の締結における契約内容や、基本的な監査計画の策定について学習します。また、重要な虚偽表示のリスクの評価と監査計画及び監査調書の適宜及び作成目的や、監査調書の様式や内容を学習します。	配布資料 演習の課題と解答例
第3週：他の監査人の監査結果の利用 企業活動の広域化・国際化により会計監査は主たる監査人だけの業務では対応できなくなっています。ここでは主たる監査人が他の監査人の監査結果を利用する際の指針を学習します。	配布資料 演習の課題と解答例
第4週：専門家の業務の利用 企業活動の複雑化により各領域の専門家の知識や技術を利用することが不可欠になりつつありますので、そうした際にいかに専門家の業務を利用するかについての指針等を学習します。	配布資料 演習の課題と解答例
第5週：経営者による確認書 経営者からの書面による確認書について監査基準に沿って学びながら、確認書の意義や入手の制度化の必要性を学習します。	配布資料 演習の課題と解答例
第6週：監査報告 監査基準第四報告基準に沿って「財務諸表が適正である」とは何を意味するかについて学びます。	配布資料 演習の課題と解答例

第 7 週 監査報告書の意義		
監査の結論を監査意見といいますが、通常は文書化され監査報告書として依頼人に渡されます。ここでは、監査報告書の機能と基本構造を学習します。		配布資料 演習の課題と解答例
第 8 週：適正意見表示の判断の基準		
監査報告書に適正意見を表示する際の基準を学習します。特に形式的に判断することから実質的に判断することへの移行方法やリスクアプローチと監査意見との関係も学びます。		配布資料 演習の課題と解答例
第 9 週：除外事項と監査意見		
監査人が無限定適正意見以外の監査意見を表明することになる原因事項を除外事項といいますが、ここではそれら除外事項の種類や監査報告書の変化を学びます。		配布資料 演習の課題と解答例
第10週：追記情報と偶発事象		
監査基準第四報告基準に沿って、追記情報の意義や記載対象、重要性の判断の仕方を学びます。		配布資料 演習の課題と解答例
第11週：継続企業の前提に関する監査人の検討		
被監査会社の継続企業としての存続能力が常に不確実性を有していることから、継続企業の前提に関して開示または監査上どのように対応するかという問題(ゴーイング・コンサーン問題)について扱います。		配布資料 演習の課題と解答例
第12週：金融商品取引法監査制度		
金融商品取引法の目的や、投資者保護のための規制や、金融商品取引法に基づく企業内容の開示の制度と監査の制度を学習します。		配布資料 演習の課題と解答例
第13週：会社法監査制度(1)		
会社法に基づく開示と監査の制度について学ぶ前に、会社法について学習します。会社の立法趣旨や株式会社の設立、計算書類等全般について学びます。		配布資料 演習の課題と解答例
第14週：会社法監査制度(2)		
会社法に基づく開示と監査の制度について、株式会社の状況を報告するための計算書類等や、計算書類等の監査等の手続きの流れを学びます。		配布資料 演習の課題と解答例
第15週：公認会計士監査制度		
公認会計士制度を司る公認会計士法の規定を中心に、公認会計士と監査法人について学習し、次に、職業的専門化として遵守すべき職業倫理や、独立性を保持していく上での脅威や適切な措置を学びます。		配布資料 演習の課題と解答例
第16週：期末試験		
これまでに学習した範囲について試験を行います。		配布試験資料 試験と解答例
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標

【関心・意欲・態度】	3年生ともなると就職活動を通して新聞を読む機会も多くなりますが、日々いろいろな不祥事や会計に関する粉飾事件も起こっています。それらはすべて監査論にもつながっていますので関心を持って読んでください。
【知識・理解】	監査論を通じて、会社法や金融商品取引法の知識を学んでください。株式会社等の資金調達のために監査がどのように機能しているかを知ること、会社法や簿記の知識も深くなります。
【技能・表現・コミュニケーション】	監査論で学んだ考え方を実際の就職活動でどう表現するかいつも考えてみてください。就職における面接においては、いろいろな質問をされますが、基本は同じです。
【思考・判断・創造】	常に、なぜ？なぜ？という考え方を身につけてください。最初は、知識を覚えることも大切ですが、覚えつつなぜそうなっているのかをいつも考えてください。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	30点		10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	10点	10点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	10点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点	10点		
(「人間力」について)				
※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	原則として、毎回講義の初めに課題を出します。提出をもって出席に代えますので、遅刻せずに課題を解いて提出してください。達成水準の目安は以下の通りです。Sレベル:達成目標を満たしている。Aレベル:ほぼ満たしている。Bレベル:なんとか満たしている。Cレベル:一部分満たしている。
発表・その他 (無形成果)	授業の中で適宜質問します。質問に対する解答については、成績評価において加点することがあります。